

目標はあなたをやる気にさせるか？

：実験室実験によるアプローチ

山根承子（大阪大学大学院経済学研究科）[†]

報告要旨

本稿では目標設定モデルを作成し、その妥当性を実験室実験によって確認した。本稿で提唱するモデルはまず、目標がパフォーマンスに影響を与えると考える。ただしその影響の方向には個人差があり、個人は高い目標を持つことでパフォーマンスが上昇するタイプと下降するタイプの 2 種類に分類できるとする。このタイプが目標設定行動と関連しており、個人は自分のタイプを所与とした上で効用最大化を行って目標を設定すると考える。従って、高い目標を設定する人や低い目標を設定する人といった多様性を記述することが可能となる。このモデルを検証するために、目標を立ててから計算問題を解くという実験をデザインし、ある目標下でのパフォーマンスのデータを手に入れた。実験の結果、本モデルの妥当性が支持され、これまでの経済学ではあまり扱われてこなかった、内生的なメカニズムを捉えることに成功した。

[†] 〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-7
e-mail: hgp011ys@mail2.econ.osaka-u.ac.jp